

活動計画書 / 活動実施計画書

団体名：藤が丘まちづくり協議会

1 都市マスとの関連性（A～H、1～3をそれぞれ選択して記入してください。）

B-1：賑わいを創出する交通機能の強化／C-1：災害（感染症等を含む）につよいまちづくり / F-3：個性的な魅力空間の創出

2 活動地域の特性、現況、課題

①地区特性

- 歴史と基本特性：藤が丘地区は昭和40年代に名東区東端の山林原野が土地区画整理事業によって整備された地区です。整備時に地下鉄東山線が延長され市バスのバスターミナルが整備されたため、名古屋市中心部への交通利便のよいベッドタウンとして発展しました。
- 変化：愛・地球博の開催を機に長久手町（現、長久手市）から豊田市に至る東部丘陵線（リニモ）が整備されて沿線地区の開発が進み、住商複合の総合的な地区に成長しました。
- 住民：約50年前に土地区画整理事業で成立した地区であり、成立当初はいわゆる通勤族である住民が多く、現在も若年社会人の単身者層が多いことが特徴です。昨今は定住者が増加するとともに20歳代の住民が減少し、子育て層、高齢者層の割合が増えています。昨年度実施した藤が丘地区住民まちづくり意向調査では、地区に対する肯定的な評価が高く、全回答者の3割以上が自由記述に回答するなど、地区に関する関心の高さが認められました。

②現況

- 地区特性：居住を中心とする名古屋の東の玄関から、商業が複合した名古屋東部エリアの中核に成長しつつあります。この状況を期待する住民が多いことも昨年度の地区住民まちづくり意向調査で確認されました。一方、土地区画整理事業によって整備された都市インフラが一斉に老朽化しており、今後、地区の利便性が低下する恐れが発生しています。
- 変化：令和4年11月に長久手市内の愛・地球博記念公園内にジブリパークが開園したため、地下鉄藤が丘駅、リニモ藤が丘駅の乗降数が増加、結節点としてのサービス向上、地域商業の活性化が期待されています。複数のマンション建設（分譲）が現在も進行しており、子育て層世帯の急速な増加が予測されています。地区の成熟に伴い、人口構成も現段階では高齢者層が増加、転入・転出が落ち着き、本協議会（藤が丘まちづくり協議会）が新たに結成されるなど、住民のコミュニティづくりへの意識も高まっています。ジブリパークの開園を契機に地区外との交流のあり方についても議論が始まっています。

③課題

- 藤が丘まちづくり協議会では地区課題を「短・中期」「中・長期」に分けて考えています。
- 都市型コミュニティづくり（短・中期課題）：地区の成熟につれ、地縁的な結びつきによる都市型コミュニティ構築に向けた持続的なエリアマネジメントづくりが課題です。
 - 市街地整備（中・長期課題）：老朽化する都市インフラの計画的な再整備、特にコロナ渦を教訓にした災害に強く賑わいもある地区づくり、東山線高架下のコミュニティ形成施設としての活用等、具体的な地区の将来像を地区住民発案で示すことが課題になっています。
 - ジブリパーク対応（短・中期課題）：ジブリパークの開園によって純増する藤が丘駅通過者（外国も含む）を商店街新規顧客とするとともに、地区住民との新たな交流を契機とした地区アイデンティティづくりと持続性のあるまちづくりを進めることが課題です。

3 団体の活動実績

※ 過去に地域まちづくりの助成を受けたことがある場合、その実績も含めて記入すること

2020年：藤が丘まちづくり協議会設立・地域まちづくり活動団体登録
リニモ沿線地域づくり会議に委員として参加
第1回藤が丘大文化祭協賛

2021年：施設部会設置
名古屋市長、愛知県知事に要望提出
第2回藤が丘大文化祭協賛
建築系愛知16大学設計競技（藤が丘エリアがテーマ）の二次審査に参加
「広報藤が丘（自治会加盟者対象ミニコミ誌）」6月号～9月号に藤が丘の歴史、まちづくり方針について連載

2022年：施設部会を4回開催し、藤が丘駅周辺の「駅まち」化を検討した
「藤が丘地区住民まちづくり意向調査」の実施および分析（同上）
「藤が丘まちづくりニュース第1号」発行（同上）
「エリアマネジメント先進地区：横浜市黄金町他」視察（同上）

4 助成を受けようとする活動の目的

- ①藤が丘まちづくり協議会が持続的かつ効果的にエリアマネジメントを展開して藤が丘地区の地区再生に継続的に寄与するための組織形態、手法の模索
- ②老朽化した都市インフラの再整備による地区再生のまちづくりビジョン構築の前提となる地域住民の意向（にぎわい、防災、アフターコロナ、求められる都市施設等）掌握
- ③藤が丘地区住民まちづくり意向調査で明らかになった地区住民のまちづくり意向の深掘りとより地区住民との能動的な展開による地区住民まちづくり意向の「見える化」。

5 活動による今年度の成果目標

- ①藤が丘まちづくりニュースの発行による協議会活動、藤が丘地区住民のまちづくり意向の住民周知向上による住民関心の喚起
- ②地区住民まちづくり意向調査の多面的な分析による住民まちづくり意向の深掘り
- ③ワークショップ、社会実験等、能動的な住民参加型の活動によるまちづくり方針明確化

6 助成を受けようとする今年度の活動内容

- ①藤が丘まちづくりニュースの発行：昨年度の成果である「地区住民まちづくり意向調査」結果の多面的な分析結果をまとめて住民に提供（8ページ構成）
- ②藤が丘地区住民まちづくり意向調査の多面的分析、報告：地区住民、協議会、商店街、行政・大学等活動協力団体のニーズを踏まえたクロス集計等による分析および詳細報告書の作成
- ③まちづくりワークショップ：「名古屋高架下巡り」「藤が丘ここがおかしくおもしろい」をテーマとする住民・学生ワークショップ（2回）
- ④リニモス広場活用社会実験：違法駐輪が多く、広場的利用が困難でもあるリニモス広場を、地区住民がより多様に活用可能とする方策を検討する（装置的アイテムを広場に展開することによる利用変化を確認する社会実験）。

※ この様式は公開されます。

7 今年度の活動実施の際に協力や調整等が必要となる関係者等

藤が丘学区連絡協議会
藤が丘地区区政協力委員会
藤が丘小学校
愛知学院大学社会連携センター
地域商店街未来デザイン会議・地域最適化研究会（愛商連・名商連・名古屋市・愛知県・愛知学院大学で運営）
名古屋学芸大学
名古屋市住宅都市局
愛知県（ジブリパーク課）
愛知高速鉄道

8 今年度の活動内容のスケジュール

年 月	活 動 内 容
令和5年5月	まちづくり協議会総会 基本構想策定部会（年4回開催予定）
6月～8月	前年度地区住民まちづくり動向調査クロス集計・分析
8月	地区住民ヒヤリングによる住民意向のアクティブ分析
9月	藤が丘地区住民まちづくり調査最終報告書作成
11月	第1回まちづくりワークショップ（名古屋高架下めぐり）
11月	リニモス広場活用社会実験
令和6年1月	第3回まちづくりワークショップ（藤が丘ここがおかしくおもしろい）
2月	今年度のとりまとめと来年度の方針検討

9（構想策定・実践目的達成）までの想定プロセスと今後の展望

令和5年度に地域課題、まちの将来像に関する協議を行い、令和6年度にゾーニング、構想実現のための推進体制、関連事業者、団体との役割分担等、構想を具体化するための検討を行い、構想構築を行う。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、3ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。